

# 読書推進運動



公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘  
編集人 片岡 伸子

定価 60円  
会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No.623

★野間読書推進賞 受賞者決定(3頁)

★野間読書推進賞 受賞者の活動報告(7頁)



## 「読書週間」によせて 装幀家を見つけたら

映画監督

ひろせななこ  
広瀬奈々子

子どものころ、なにも書いていない、のつべらぼうの本を父からもらつてお絵描き帳にしていた。のつべらぼうの本は「東見本」といつて、紙の厚みやページ数を割り出したサンプルで、装幀の仕上がりを確認するために用いられる。父の職業は装幀家。その時々で「ブックデザイナー」とか「グラフィックデザイナー」、たまに「装幀」または「装丁家」と、やや曖昧に名乗っていた。正直なところこの名乗りづらい仕事に、私は長い間さほど関心がなかった。友だちに父の職業を聞かれると、なんと言うべきか困っていたのを覚えている。

つんで、ひらいて』を撮るはじまりだった。菊地信義さんの名前は以前から知っていた。どこでどう知ったのかは覚えていない。実家の本棚にあった菊地さんの著書『装幀談義』(筑摩書房)を読んだとき、わかつたつもりになっていた仕事をはじめて理解し、なぜだかストンと腑に落ちた。こんなにおもしろい仕事にいままでなぜ興味を持とうとしなかったのだろうと猛省した。菊地さんにカメラを向けるのは決して簡単ではなかった。電話でこういうところを撮りたいと申し出ると、うーむ、と考え込み、もう少し考えてきてくださいと返されてしまうこともたびたびあった。逆に菊地さんから、こういうものを撮るとおもしろいと思うと提案

がある。と今度は私が、うーむ、と首をひねる。厄介かと思えば、思いのほかチャーミングな一面もある。仕事する姿はつねに楽しそうで、飽きることなく玩具で遊ぶ子どものようだった。紙や文字の話をするときは、一段と目を輝かせる。紙に印刷した文字を切つて台紙に貼つていく菊地さんの手仕事は、パソコンが主流となつたいま、もはや絶滅寸前の技だろう。0・何ミリ単位をピクセルで配置しデザインしていく裏に、そんなのだけれも気づかないでしょ、と突っ込みたくなるような細かな仕掛けと想いがある。そして知れば知るほど、なるほど、この紙の質感は……と知つたふうになをさわりたくなるのが不思議だった。当然のことながら1冊の本

ができる過程には、じつにたくさんの方が関わっている。編集者、印刷所、製本所、時に製紙会社や箔押し工場。機械にかけられないデザインの場場合は、何千部という本を1冊ずつ手作業で製本することもある。織り方ひとつに試行錯誤を繰り返す。こうした過程を見てみると、私たちが普段いかに紙を味わうことがなくなつてしまつたか気づかされる。なにかもがデジタルで済んでしまう時代だ。装幀ほど、ひとりの表現者としての個性を主張しにくい表現はない。装幀家自身の意思に関係なく、本の内容こそが本の外側を決めるすべてであるからだ。菊地さんは自らを「装幀者」と名乗る。あくまで裏方に徹したいという意思表示のようにも感じる。3年間菊地さんを撮り、本とは、心を耕す道具であり、紙という身体を持った一個の他者だと考えるようになった。本の個性を輝かせる仕事を何千冊と手がけてはじめて、装幀家の個性は輝くのかもしれない。



# おかえり、 栗の場所で待ってるよ

## 2019・第73回 読書週間

10/27～11/9



## 図書館、書店などなど 本のあるところで「待ってるよ！」

10月27日(日)より、「読書週間」が始まります。今年の標語は「おかえり、栗の場所で待ってるよ」。栗の場所だけではなく、図書館・書店でも読者を「待ってるよ」とアピールしていただければ、うれしく思います。

ポスターは公共図書館へは各道府県読書推進運動協議会・各都道府県立図書館、学校図書館へは全国学校図書館協議会、書店へは日本出版取次協会の協力により各販売会社を通じて配布しております。部数追加をご希望の施設や団体は、遠慮なく当協議会事務局へお申し付けください。

また、過去のポスターデータの貸出も例年同様に行っておりますので、興味をお持ちの方は事務局までご連絡ください。

ホームページ「素材集」のポップやしおり、ブックカバーのデータも公開しております。今後のデータ作成の参考といたしますので、活用事例など、ご意見、ご感想をぜひ、事務局までお寄せください。



今年のブックカバー、しおり、ポップ  
(ホームページよりダウンロード可能)

今年も、「読書週間」雑誌広告を用意し、日本雑誌協会の協力のもとで各雑誌出版社へ掲載を呼びかけました。10月1日現在で、13社36誌の協力をいただいております。おもに10月中旬～11月初旬発行の雑誌に掲載されます。

日本書店商業組合連合会(日書連)では、今年も読書週間期間中に「読書週間 書店くじ」を全国多数の書店で実施します。くじは

「書店くじ」実施書店で500円以上の書籍・雑誌を購入した読者に1枚進呈。今年の賞品は、1等賞Ⅱ図書カード50000円分(1100本)、以下、2等賞Ⅱ10000円分(220本)、3等賞Ⅱ5000円分(3300本)、4等賞Ⅱ1000円分(4万4000本)は、図書カードまたは図書購入時に直接充当できるとしています。当選発表は12月5日(木)。日書連ホームページ(<http://www.shoten.co.jp>)および実施書店の店頭掲示ポスターで確認できます。

日本出版販売労働組合では、クリアファイルに読書週間啓発チラシとしおりをはさみ、全国の駅頭で配布する読書推進キャンペーンを今年も実施します。

そのほか、全国の公共図書館図書室で多くの行事が予定されています。「読書週間」終了後に各道府県読書推進運動協議会より報告をいただき、来年4月に本紙別冊付録「行事報告一覧」を発行します。

別冊「第61回 こどもの読書週間 行事報告一覧」  
について

『読書推進運動』別冊「2019 第61回 こどもの読書週間 行事報告一覧」がまとまりました。

たいへん多くのご報告をいただきましたため、紙面に余裕がなく、多くの図書館で行われた一部の行事の内容を、割愛いたしました。以下に、内容を割愛した行事と内容説明をご紹介します。

●一日司書/図書館の仕事体験

図書館の概要や利用方法の説明後、館内を見学し、カウンター業務や書架の整理などを体験する。参加者が読み聞かせの実演をする場合もある。小学校中・高学年が参加することが多い。

●ぬいぐるみのお泊まり会

図書館で開催されるおはなし会に、ぬいぐるみ持参で参加。おはなし会終了後、図書館にぬいぐるみが「宿泊」する。夜の図書館でのぬいぐるみの様子(館内探検、書架整理、おはなし会など)を撮影し、写真やアルバムをぬいぐるみを迎えにきた子どもへ進呈。ぬいぐるみが気に入った本「ぬいぐるみがおすすめる本」を同時に貸し出すこともある。

# 2019年度・第49回

## 『野間読書推進賞』決定

9月13日(金)、東京都千代田区の出版クラブビルで行われた『第49回 野間読書推進賞 選考委員会』において、2019年度の受賞者が左記のとおり決定しました。

### 《団体の部》

- ・ 鹿嶋市読書団体連合会 (茨城県鹿嶋市)
- ・ 諫早コスモス音声訳の会 (長崎県諫早市)

### 《個人の部》

- ・ 村上 招子さん (広島県三原市)
- ・ 今井 登美子さん (大分県中津市)

今年度の野間読書推進賞は、道府県読書推進運動協議会や教育委員会などに受賞候補者の推薦をお願いしました。

いただいた推薦数は、団体の部13(前年17団体)、個人の部5(前年5人)。8月13日(火)に野間読書推進賞事業委員による第一次選考会を行い、選考会に向けて、8団体、2個人を選出しました。

選考委員会は9月13日(金)に開催され、前記の受賞団体・受賞者が決定しました。

鹿嶋市読書団体連合会は、1977年設立。茨城県鹿嶋町

事業への貢献も多大です。年1回発行する文集『あしかび』は、読書感想文、随筆、詩などを会員以外からも募り、各行事や研修会の報告とあわせて掲載しています。

諫早コスモス音声訳の会は、1988年に長崎県諫早市で「諫早コスモス朗読奉仕会」として誕生。「視覚に障がいのある方の自立と社会参加の助けをを図る」ことを目的とし、市広報誌やゴミ収集日程、選挙公報など生活・市政情報の音訳、会員が取材した市内の情報やさまざまな話題を届けるオリジナル月刊誌「コスモスだより」の発行、一般図書や専門書の録音図書の制作、対面朗読など幅広く音訳活動を展開しています。毎月2時間程度の勉強会も実施。あわせて2時間程度の勉強会も実施。全体的な技術のレベルアップを目指しています。諫早市視覚障害者協会の行事にも参加し、リスターと直接ふれあい、意見交換をすることによりよい音訳活動につなげようと努力を重ねています。

1985年の鹿嶋町立図書館(現鹿嶋市立中央図書館)設置の大きな力となりました。設立から現在にいたるまで、「著者を囲む会」「文学散歩」「読書のつどい」「読書研修会」を継続して開催。市立図書館を会場に市民からの寄贈を受け付けて行う「古本市」など、図書館

冊の蔵書を有し、月2回、絵本の読み語り、貸出、子育て相談、折り紙遊びなどを行っています。2014年からは「家庭菜園『ぼてとえん』」をはじめ、絵本の読み語りに加え、野菜作りをするなど実体験を通して子どもたちの生きる力を育んでいます。その他、地元小学校に学期ごとに図書を貸出、小学校・保育園などでの読み語り、絵本コンサートの開催、さらに2011年の東日本大震災以降は宮城県気仙沼市の保育園と交流、継続的な支援を行っています。

今井登美子さんは、1995年に大分県中津市で「読み聞かせグループ『ポケット』」を立ちあげました。公民館図書室から小学校



へと活動場所を移行するなかで、2001年に中津市内小学校で読み聞かせを行っている他のグループと「読み聞かせグループ『ゆめくらぶ』」を結成、2002年には地域の人たちに呼びかけ、小学校の朝読書を推進するため「読み聞かせグループ『クレヨン』」を立ちあげ、活動の輪を着実に広げ、2004年に市内読み聞かせグループの拠点となる「なかつおはなしネットワーク」を設立しました。17グループが参加するネットワークでは、個々のスキルアップを目指し、図書館と共同で子どもたちの読書活動推進を図っています。今井さんはネットワーク代表として、研修や講座などを率先して実施、後進の育成にも積極的に取り組んでいます。

今年度も、全国からすばらしい団体、個人の推薦をいただきました。オーソドックスな読書会活動の積み重ね、障がい者への読書支援、地域の伝承の掘り起こし、読書に興味がない子どもへのアプローチに工夫が見られる活動など、読書推進運動の多様性が再認識された選考会となりました。

贈呈式は11月6日(水)、午前11時より、東京都千代田区神保町の出版クラブビルにて開催します。

■造本装幀コンクール表彰式

### 10月以降には受賞作品の展示を各地で開催

出版・印刷・製本・装幀・デザインなど、造本装幀に関わる人々の成果を総合的に評価し顕彰する「第53回 造本装幀コンクール」(主催 日本書籍出版協会/日本印刷産業連合会)の表彰式が9月10日(火)、東京都千代田区の日比谷図書文化館で行われた。

最初に主催者として相賀昌宏・日本書籍出版協会理事長が挨拶し、続いて金子真吾・日本印刷産業連合会会長の挨拶文が披露された。

審査総評では、柏木博審査員長が「年々クオリティもあがっている



経済産業大臣賞受賞者の記念撮影

が、少数数の手作りの本だけでなく、大量部数の本も積極的に応募してほしい」と期待した。

引き続き賞状授与に移り、当協会の「読書推進運動協議会賞」は『山梨ワイン探索 23組の生産者を訪ねて』(美術出版社)装幀者 中川寛博、印刷・製本 図書印刷株式会社へ贈呈された。

受賞者を代表して文部科学大臣賞『僕らのネクロマンシー』版元のNUMABOOKS・内沼晋太郎代表、経済産業大臣賞『ちのかた

ち 建築的思考のプロトタイプとその応用』版元のOTTO出版・清水栄江さん、東京都知事賞『Close Your Ears』装幀者のサイトラヒデユキさんが順次登壇し、謝辞と今後の抱負を語った。

受賞作品を含む全応募作品は、10月25日〜27日に東京都千代田区の東京室ホールで無料公開展示される。26日には併催イベントとして、2004〜2006年に同コンクール審査員を務めた装幀家 菊地信義さんを追ったドキュメンタリー映画『つつんで、ひら



読書推進運動協議会賞も贈呈された

いて」のプロモーションビデオ上映と、映画監督の広瀬奈々子さんほかによるトークショーが開催される(入場無料、先着順。詳細は<http://www.magichour.co.jp/tsutsunde/>を参照)。

そのほか「第21回 図書館総合展」(11月12日〜14日、パシフィコ横浜)、「世界のブックデザイン2018〜19」(12月14日〜来年3月中旬、印刷博物館/4月〜5月、奈良県立図書館情報館)でも受賞作品の展示が予定されている。

入賞作品は来年2月にドイツ・ライプツィヒで開催される「世界で最も美しい本コンクール」に出品された後、10月のフランクフルトブックフェアでも展示される予定となっている。

■紙芝居文化の会 発表会開催

### 演じることも学びの一環！ 紙芝居講座受講生の発表会

紙芝居を愛する人、興味のある人、演じたい人など、さまざまな人が国境を越えて出会い、交流することを目的とする「紙芝居文化の会」が、9月14日(土)、東京都千代田区のブックハウスカフェで「かみしばいタイム」連続講座発表会」を開催した。

「紙芝居文化の会」では毎年、年6回の講義で紙芝居の歴史や基本的なことから、演じ方を学ぶ「紙芝居連続講座」を開設している。公の場所での発表会は、今回はじめて。

13名の受講者がそれぞれ、『おきくおきくおきくおきくなあれ』(まついのりこ)、『あめふってきた ゆきふってきた』(かこことし)など1作ずつ紙芝居を上演。連続講座OBだけでなく、ブックハウスカフェに立ち寄った多くのお客さんたちの前で、日ごろの成果を発揮した。この発表会は、今後の連続講座でも行う予定。

2020年度の紙芝居連続講座は、来年1月より参加者(定員14名)を募集し、4月に開講。講座



それぞれが選んだ紙芝居を観客の前で披露した

は土曜日の午後15時、童心社 KAMISHIBAI HALL (東京都文京区)で開かれる。

また、同会では11月16日(土)・17日(日)に「第18回 総会・紙芝居講座」はばたたく紙芝居 平和の光』を出版クラブビルで開催する。17日には児童文学作家の早乙女勝元さんの講演も予定されている。

連続講座 総会・紙芝居講座とも、スケジュールや受講料など詳細は紙芝居文化の会まで。

「紙芝居文化の会ホームページ」  
<https://www.kamishibai-ikaja.com/index.html>

■国際子ども図書館 展示会

前衛的、革新的な美術様式に  
あふれる世界の絵本を一堂に

国立国会図書館国際子ども図書館(東京都台東区)は、展示会「絵本に見るアートの100年」(ダダからニュー・ペインティングまで)を10月1日(火)〜2020年1月19日(日)に開催する(前期・後期で一部展示内容を変更)。

この展示会では、20世紀における絵本の革新と創造に焦点を当て、美術の観点から国内外の絵本を紹介する。ダダやシュールレアリスムにはじまり、第2次世界大戦を経て現代にいたるまでの芸術思潮と絵本の関わりについて取りあげ、『海と灯台の本』(マヤコフスキー文)『ポクロフスキー 絵』、『あひるさんとわとりさん』(村山壽子作/村山知義 絵)、『西風号の遭難』(オールスバーク 絵)文、『あかいふうせん』(イエ・マリ 著)などが展示される。また、さまざまな画家が描いた『不思議の国のアリス』『赤ずきん』『ピノキオ』が同時に展示され、視覚表現性の差異を確かめることもできる。

絵本が展示されるアーティストは、岡本太郎、草間彌生、横尾忠則、

李禹煥、キース・ヘリング、サルヴァドール・ダリ、ジャン・ミシェル・バスキア、マリー・ローランサンなど。

会期中の11月9日(土)には、台東区上野の山文化ゾーンフェスティバルの一環として、講演会「美術と絵本―冒険と革新」を山田志麻子さん(うらわ美術館学芸員)を講師に迎えて開催。また、そのほかの講演会や、スタッフが展示の見所を紹介するギャラリートークが予定されている。館内の別のコーナーで、関連資料を用いた小展示も開催される。

講演会の申し込み方法、開館時間、休館日などは国際子ども図書館ホームページを参照ください。  
●国立国会図書館国際子ども図書館ホームページ  
<https://www.kodomo.go.jp/>



展示会のチラシからも表現の多彩さが伝わる

■JBBY 展示

子どもの本で世界を旅し、  
世界を知る

日本国際児童図書評議会(JBBY)は、10月1日(火)〜11月12日(火)、東京都千代田区の出版クラブビルクラブライブラリーで「世界の子どもの本展―I B B Y オナーリスト2018―」を開催、国際児童図書評議会(I B B Y)が61の国と地域から選んだ50言語、約200冊の世界の本を紹介する。11月7日(木)と12日(火)には、各言語の翻訳者が展示図書を解説する「翻訳作品部門」『青い月の石』

る「ブックトーク」も開かれる。1日のオープニングではあわせて、2020年I B B Yオナーリストへの日本の推薦作品が発表された。推薦作品は以下のとおり。文学作品部門『きみの存在を意識する』梨屋アリエ作、ポプラ社イラストレーション作品部門『『よるのおと』たむらしげる 作 併成社

西村由美訳 岩波書店  
「世界の子どもの本展」はこの後、11月16日〜12月1日に太田市美術館・図書館(群馬県)、12月17日〜12月28日に流山市立中央図書館(千葉県)、2020年2月1日〜16日に奈良県立図書情報館(奈良県)、2月後半に大阪府立中央図書館(大阪府)、3月後半にゲートシティ大崎(東京都)で開催される。会期未定だが、豊田市子ども図書館(愛知県)でも開催。展示の詳細、展示希望の図書館・美術館などはJBBYまでお問い合わせを。  
【JBBYホームページ】  
<http://jiby.org/>

■「科学道100冊2019」発表

すばらしい科学の世界へ誘う  
100冊を紹介!

自然科学の総合研究所、理化学研究所(理研)と、本の可能性を追求する編集工芸研究所が運営する「科学道100冊委員会」は、書籍を通して科学者の生き方・考え方を、科学のおもしろさ・すばらしさを届ける「科学道100冊プロジェクト」を2017年より展開している。

この9月に発表した選書リスト「科学道100冊2019」では、旬のトピックなど3つの軸で選んだ

テーマ本50冊と、時代を越える良書として選んだ「科学道クラシックス」50冊の計100冊を紹介。今回のテーマは「元素ハンター」「美しき数学」「科学する女性」となっている。

同委員会では、「科学」と「本」という両研究所の強みを生かし、中学生・高校生を中心とした幅広い層に科学の魅力を多様な視点から継続的に伝えるべく、活動を続けていく」と、今後も毎年の恒例企画として100冊のリストを発表する予定。  
現在、同委員会では、「科学道100冊2019」を展示する図書館・教育機関・各種団体・書店などを募集している。参加団体へは、見出しなど書棚ツール一式とブックレットが無償で提供される。100冊のラインナップ、参加条件、申し込み方法など、詳細は「科学道100冊」ホームページを参照ください。  
【科学道100冊】ホームページ  
<https://kagakudo100.jp/>

■「本の日」キャンペーン開催

# 11月1日「本の日」の普及拡大を目指す

## 「本の日」実行委員会事務局

「本の日」って？

11月1日の「本の日」は、書店の売上げが厳しいなか、読者に本との出会いの場である書店に足を運ぶきっかけとしてもらうとともに、情操教育の一環としての「読書運動の活性化」を目的に発案された記念日です。

全国各地の書店で構成されている「書店新風会」（大垣守弘代表）が2017年度の総会で11月1日を「本の日」に制定すると発表。一般社団法人日本記念日協会に申請し、同年9月15日に登録・認定されました。日付を11月1日としたのは、「11」と「1」で本棚に本が並んでいるように見えることと、想像、創造の力は1冊の本からはじまるとのメッセージが込められています。

①「本の日」の考えに賛同した書店10名が発起人となり、①全国の書店・書店会で構成し、一部の書店・書店会に限定せず、設立後も幅広く参加を呼びかける。

②キャンペーンスローガンは『11月1日は「本の日』』『本の日は本屋へ行く！』『11月1日は本屋へ行く！』、③ブックフェアやイベントほか、書店の来客・販売促進に寄与し「本の日」の趣旨に賛同した各種キャンペーンが全国の書店で展開されるよう、普及活動に努める、④出版社様、販売会社様、関係団体様にも広く働きかけ、出版業界を挙げた恒例行事として認知され、定着することを目指す、の4項目を設立趣旨に掲げて「本の日」実行委員会を立ちあげ、ことに当たりました。

①「11月1日は本屋へ行く！」「本の日」をみんなで行く日にするため、まずは出版に携わる関係者が当日は本屋に行くよう、業界内に呼びかけました。

②図書カードプレゼントキャンペーンは日本図書普及協会の協賛で、店頭掲掲ポスターから申し込むと総額500万円の図書カードが当たる企画を実施、1万8000名ほどの応募がありました。

③11月1日当日イベントは明正堂アトレ上野店、三省堂書店有楽町店の2店舗で作家の林真理子さんに一日店長を務めていただきました。

こうした取り組みを行った結果、「本の日」当日にイベントを実施した書店では、売り上げが前年を上回る成果をあげることができました。※実行委員会調べ

さて、2年目となる今年は前回の実績を踏まえつつ、さらなる認知向上と業界をあげた取り組みを実現するべく、①日本書店商業組合



今年のキャンペーンチラシ



10月9日に選考会が開かれる

合連合会にて実行委員会事務局を設けて組織的な周知活動を展開、②関係団体による業界を挙げた周知活動、③各社・各店の主体的な取り組みを促す企画提案、の3つの方針を掲げて活動しています。

書店店頭でのキャンペーンには、つぎの企画を予定しています。

①図書カードプレゼントキャンペーンは日本図書普及協会の協賛で今年も継続。携帯端末で店頭ポスターのQRコードを読み取って応募すると、一等賞「図書カードNEXXTギフト」10万円分×10名ほかの賞品が当たります。実施期間は11月1日から同月11日まで。

②「本の日」ブックカバー大賞は文庫用ブックカバーのデザインを公募し、大賞に選ばれたデザインで実際にカバーを製作、およそ170の参加書店で11月1日から一斉に読者に配布します。応募デザイン数は200件を超えており、10月9日に大賞の選考を行います。※参加書店、デザインとも募集期間は終了

### 最新情報のご確認を

また、今年日本雑誌協会のご協力で同協会の加盟会員社が発行する雑誌に「本の日」のPR広告を掲載していただけることになりました。このほかにも現在調整中の企画などもあり、11月1日の「本の日」に向けて少しでも多くの読者に書店に足を運んでもらえるよう、着々と準備を進めております。

「本の日」の趣旨に賛同いただける関係各社、業界団体におかれましては、連動した企画や販促施策の実施などでぜひご協賛ください。

「本の日」キャンペーンの最新情報は特設サイトで随時発信しておりますので、こちらもご確認いただけます。お気軽に申しあげます。

●「本の日」特設サイト  
<https://honohi.com/>

③一日店長企画は10月から11月の期間、24書店で地元ゆかりのある作家がPR活動やサイン会、トークイベントなどを行います。事前申請のあった実施店のうち、実行委員会承認したものに対しては委員会が経費の一部を補助します。※募集期間は終了

■野間読書推進賞受賞者の活動報告

活動の幅が広がり、  
地域の高齢者と音読を楽しんでいます

富士見町宅配ボランティア(長野県) 御子柴啓子

光陰矢の如し。早いもので奨励賞受賞から3年の月日が過ぎました。その間、メンバーの高齢化が進むなど状況も大きく変化し、その対応で多忙な毎日です。

通常の活動の中で特徴的なことは、免許返納の高齢者から、図書館の本の宅配の要望が入るようになりました。このような事例は今後増加が予想されます。90歳を過ぎてても知的欲求や読書への興味は衰えず、最初のころは農閑期のみ

の依頼だったのに、年間を通して読書を楽しんでおられます。図書館が収書に力を入れている大活字本が大活躍です。  
また、介護施設に入所の方からも、ご自分で本を読みたいと貸出を依頼されます。そういう方々への支援ができることはメンバーにとって喜びです。  
\*返却ポストの設置  
富士見町は山間地帯で、公共施設が町の中心部に集中しており、遠隔地に住む住民には不便さがありません。とくに交通手段を持たな

い高齢者は日常生活もままなりません。そんな方々を支援する目的で、私たちの活動ははじまりました。もつと気軽に図書館を利用していただくために私たちにできないかを考え、町内の数か所に返却ポストを設置してほしいと図書館に要望しました。図書館もリスクと効用などを検討してくれ、まず手

はじめにJR駅の構内に2018年9月に設置が実現しました。長野県内でははじめてのこと、当初は管理の問題など懸念されましたが、とくに心配される事故もなく、多くの住民に喜ばれ現在に

長野県内でははじめてのこと、当初は管理の問題など懸念されましたが、とくに心配される事故もなく、多くの住民に喜ばれ現在に

いたっています。今後、ポストの数の増加を願っております。  
\*音読講座の開催  
いま、日本の各地は人口減少と高齢化への対策が喫緊の課題となっており、健康寿命の延伸を旨とし、行政はいろいろな取り組みを実施しています。その中で「図書館としての社会貢献を」とはじめられたのが音読講座でした。

声を出すことが脳の活性化につながるという東北大学の川嶋隆太先生(脳科学者)の理論に基づき実施。先生の研究によると、前頭

前野(脳の中でもっとも程度の高い働きをしている)を生活の中で活発に働かせるためには3要素【①読み・書き・計算をすること ②他者とコミュニケーションをすること ③手指を使ってなにかをすること】があり、なかでも、読み・書き・計算は、毎日短時間集中して行うことで脳機能を向上させる効果があることが証明されて

おり、「音読ほと脳全体を活性化する作業は見たことがない」とまで言い切っておられます。  
私たちにとってははじめての挑戦、どんな方法で行うか、使う作品はどんなものが適切かなど皆目見当もつかないまま試行錯誤を重ね、なんとか実施してきました。その過程でたくさん課題が見つかり、多くのことを学ぶことができました。

今年2月に開催された「信濃子どもの本と読書の集い」の分科会を担当した際は、著作権の問題が浮上。最終的には、使用した本の挿絵の美しさを参加のみなさんに楽しんでいただくようと、分科会参加者数分の本を近隣の図書館などの協力を得て揃え、それを使って音読を楽しみました。当日の会場はみなさんの笑顔がはじけていたのが印象的でした。



この10月1日に開催された「音読講座」の様子

また、6月に実施した富士見町社会福祉協議会主催のランチ会での音読講座では、30名ほどの高齢者のみなさんと早口ことばや、擬音の入った歌などを唄い、思いっきり大声を出し、楽しいひとときを過ごしました。参加された高齢者の方からは、「むずかかったけれど、とてもおもしろかった。久しぶりに大笑いしたよ」と喜んで

いただきました。  
10月1日、図書館主催の「懐かしい童謡の世界に浸りながら脳の活性化を」と題した音読講座では、はじめての試みとして、エッセイの朗読の際にBGMを流し、みなさんに聞いていただきます。また早口ことばではだれも上手くできず、しどろもどろ。それがまたおもしろく、笑いを誘います。「上手に！より、声を出して楽しく！」をモットーに行う予定です。どうなりますでしょうか。  
2017年の3月からはじまった音読講座もテーマや場所を変え、7回続けて実施してきました。音読講座の必要性は徐々に広まってきております。可能なかぎり続けていくつもりです。

私たちの活動が、わが町の健康寿命の延伸につながってくれることを願っております。



好奇心を満たし、健康寿命延伸につながる「音読講座」



# 2020年

## 第62回「こどもの読書週間」

## 第74回「読書週間」

2020年4月23日～5月12日

2020年10月27日～11月9日

### 標語募集!

2020年第62回「こどもの読書週間」と第74回「読書週間」の標語を募集します。

この標語は12月中旬に公益社団法人 読書推進運動協議会の事業委員会で選定し、それぞれのポスターに刷り込んで全国の新聞社・雑誌出版社へ、また道府県読書推進運動協議会、都道府県立図書館を通じて公共図書館などへ、そして、全国の学校や書店などに送られ掲出されます。

第62回「こどもの読書週間」のポスターは、荒井良二さんのイラストと杉浦康平さんのデザインで製作の予定です。秋の「読書週間」は、4・5・6月に募集するポスターイラストとの親和性を高めるため、この時期に標語を募集します。

これまでの標語は、当協議会ホームページでご覧いただけます。

●《応募要項》

①標語案Ⅱどちらも、読書の豊かさ、奥深さ、楽しさ、有用性などを新鮮な感覚で表現した未発表のもの。「こどもの読書週間」標語は、子どもの読書を念頭に「ご応募願います。

②応募用紙Ⅱ官製はがき、A4判ファックス用紙、メール

③応募作品数Ⅱ「こどもの読書週間」「読書週間」とともに、ひ

とり3作まで応募可。返却はいたしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。

(入選作の版權は公益社団法人 読書推進運動協議会に帰属)

④締切Ⅱ2019年11月15日(金) 必着

⑤賞Ⅱ「こどもの読書週間」「読書週間」それぞれに、賞を用意します。

▼入選(1作) 図書カード1万円分、標語として採用▼次点(2作) 図書カード5千円分▼佳作(20作前後) 図書カード2千円分

⑥発表Ⅱ入選・次点まで「読書推進運動」1月発行号紙上、佳作は賞券送付

⑦送り先Ⅱ〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6階 公益社団法人 読書推進運動協議会

「こどもの読書週間」標語係 または「読書週間」標語係 (どちらへの応募か明示してください)

・ FAX 03-5244-5271

・ メールアドレスⅡhyogo@dokusyo.or.jp

件名は「こどもの読書週間標語応募」または「読書週間標語応募」

### 事務局報告(9月)

- ・4日Ⅱ「JBBY世界の子どもの本講座」富安陽子の人と作品」出席
- ☆5日Ⅱ機関紙「読書推進運動」623号別冊「こどもの読書週間行事報告」一覧の校正を講談社読部部に依頼
- ・5日Ⅱ「T野の森親子ブックフェスタ」運営委員会に出席
- ☆6日Ⅱ機関紙「読書推進運動」622号校タ入稿
- ☆9日Ⅱ機関紙「読書推進運動」622号校了
- ・10日Ⅱ第53回「造本装幀コンクール」授賞式に出席。「山梨ワイン探索23組の生産者を訪ねて」に読書推進運動協賛賞を贈呈
- ・12日Ⅱとよたかずひこさん、文部科学省と来年度「子ども読書の日」ポスターについて打ち合わせ
- ☆13日Ⅱ「第49回野間読書推進賞選考委員会」を開催
- ☆13日Ⅱ機関紙「読書推進運動」622号出来
- ☆13日Ⅱ「若い人に贈る読書のすすめ」書目選定事業委員会案内を事業委員に送付
- ・14日Ⅱ紙芝居文化の発表会「かみしばいタイム」出席
- ☆16日ⅡFM東広島「本つておもしろい!」に出演。「敬老の日読書のすすめ」および2019年「読書週間」について告知
- ☆17日Ⅱ「第49回野間読書推進」受賞者・推薦人に受賞連絡書に面送付
- ☆17日Ⅱ今年度「優良読書グループ表彰」推薦締め切り
- ・18日Ⅱ「学校図書整備推進会議」運営委員会に出席
- ☆24日Ⅱ「2019年度第3回常務理事会」案内を送付
- ☆24日Ⅱ講談社読部より機関紙「読書推進運動」623号別冊校正受け取り
- ・24日Ⅱ講談社読部長室に出席

### 編集部 & 事務局のひとこと

●事務局のある出版クラブビルは、神保町交差点近くの白山通り、来年の東京オリンピックのマラソンコースに面しています。なので「予行演習」として、9月15日、オリンピック代表選考会マラソンランドチャンピオンシップMGCを、ビルの前から観戦しました。

●神保町は皇居にほど近く、皇居を走るランナーを日常よく見かける場所ですが、この日は走る格好をした人の割合がいつも以上。そんな見知らぬ人たちとスマホやラジオでレス状況を確認しつつ、選手がやってくるのを待つ。選手が近づくといい、緊張感が増す。そして、一瞬で通り過ぎていく圧倒的なスピードに驚き、歓声と応援を送る…。ほんとうに一瞬ですが、とても濃密な時間でした。

●特定の選手を応援するというよりも、この日にかけてきた選手たちみんなを応援したいという思いが、沿道にあふれていました。最後尾の選手が通過するまで、その場を離れる人はほとんどいません。望む結果を得られたのは、4人だけ。あとはとてつもない努力を重ねてきたのに、悔しいだろう、苦しいだろうに最後まで前を向いて走り抜いた選手たち。彼らにとっては結果がすべての世界ですので、その姿に感動したとは言いません。でも、自分自身がマラソン大会に参加し、本意なき状態で心が折れそうになったとき、この日の選手たちの姿が支えとなるのだらうなど、未来の自分への応援をもったような気がしています。(伸)